

令和5年度富山市民学習センター運営協議会 会議録

1. 日 時 令和6年2月16日（金） 10:00～11:55
2. 場 所 富山市民学習センター4階 講義室1
3. 出席者 委員側
布村 昇、藤田公仁子、森野かよ子、大島麻美、奥野美友紀、
木本秀樹、永田円了、岡田 茂、高城喜代子、橘 恵子、山本弘子
事務局側
水上豊（市民学習センター所長）、寺島優子（市民学習センター次長）
定塚奈々（主査）、松井琴美（主事）

4. 資 料 「令和5年度市民学習センター事業等について」
施設概要、事業概要、年間事業、市民大学開設事業、
生涯学習の啓発事業、市民大学受講者の構成、
市民大学受講者数等の推移、受講者アンケート集計結果
「令和6年度市民学習センター事業計画案について」
スケジュール、令和6年度富山市民大学の概略、
2024 富山市民大学要項・学習日程

5. 次 第

- ・ 開会
- ・ 出席者紹介
- ・ 会長、職務代理者推挙
（藤田委員を会長、木本委員を職務代理者として選任）
- ・ 議事
（議長：藤田会長、資料説明：事務局）

藤田議長 令和5年度、令和6年度、あわせてご説明いただきました。
とても前に進んでいるなど感じました。
市民学習センターの施設は、今回の能登半島地震による被害はどうだったで
しょうか。

事務局 ご心配のところかと思います。地震後、市民プラザが全館を点検いたしまして、
問題はないと、安全性を確認しております。
細かいことで言いますと、調理室の食器が少し割れたり、執務室のキャビネットが倒れ、物が落ちたりとかございましたが、大きな被害はなく、無事に特別講義も開催いたしました。

藤田議長　それでは、今ご説明いただいたところで、ご質問、またご意見ございましたらお願いします。

布村委員　アンケート結果の内容について、お聞きします。

1つ目は、人との交流を目指してくる人が非常に少なかったとありました。他の人との、交流の場を設けて欲しいという意見もある一方、交流を望んでいないという意見もありますが、元々市民大学に来る目的は交流ではないが、結果的にそういう交流が得られたら、とても良いのではないかと思います。

私が講義をしてる頃は、鋭い意見、質問、貴重な経験が出たりしたので、そういう発言ができる機会を設けてあげる、あるいは、現地学習とか、あるいは資料を持ってきて、その例についていろいろと物を使って説明するなどすれば、いろいろな交流ができるような気がします。

2つ目は、若い人が少ない、受講者が高齢化していく話がありました。60代の方の割合が大きく減っているということですが、ほとんど講座が平日なので、行こうと思っても行けない。例えば、こういう年代の人たちが来れるような工夫ができないだろうかと思ったのですが、難しいでしょうか。

3つ目は、コロナ禍のことが深く意識の中にあって、それが一段落して今度は地震がありました。12月31日までは、富山は雪があるけど、地震もないし、良いところだというのが、1月1日にはその意識がガラッと変わったと思います。災害の準備、心の準備は十分ではなく、いろんな知識もなかった。富山の地層がどんなもので、どんなに危ないところがあるかを知らなかったと思いますので、こういったことも取り上げる必要があるのかと感じました。

また、地震のこと以外の富山の自然についても忘れないようにテーマを設けることはできないか。

4つ目は、合唱コースが復活し、個人的には、できれば女声だけでなく混声があればなお良いと思います。

藤田議長　4つのご質問がありました。質問に関して、講師の先生方の皆さん、ご対応の方はこういう形でできてますよと説明いただけたらと思っております。

あと現役世代の質問については、リカレント教育を推進していくということの取り組みのお考えがあるか、視野に入ってるか、入ってないのかということだと思います。

また、立山の自然については、富山は立山に守られていると言われてきたが、研究者たちは守られていないというところを本学の大学の教員たちがお話ししているところでもありますけれども、一般的な備えという危機管理のお話も必

要ではないかということです。

それから、合唱については待ってましたというところだと思います。本学でも合唱に踏み切れないできておりましたので、今回の期待度は高いのではと思います。今のご意見に対して、事務局からお願いいたします。

事務局 ご意見ありがとうございます。

まず1つ目、人との交流につきまして、本当に結果的に交流ができたと思っていただけると大変ありがたいと思っています。

こちらからの働きかけにつきましては、やはり講師に、質問タイムを設けていただきたいということは依頼をしているところですが、グループワークまでとはいかなくても、隣の人と話してくださいとか、そういうことはコロナで差し控えていただいていたところがあるので、難しいと思います。けれども、それについては今後、なるべくできる方向で検討して参りたいと考えております。

2つ目の若い方のリカレント教育ですとかリスキリングとかにつきましては、土曜日に開催している「法律」や「洋画」コースには、平日にお見かけしないような若い方が受講されていますので、土曜日のコースをもう少し増やすことも検討できたらと思っています。

3つ目、災害に関する学習についてですが、例えば「立山黒部ジオパークを知る」コースや「富山の環境」コースにおいて、地層のことに触れてくださったり、危険性について触れてくださる先生もいらっしゃると思います。

あとはおっしゃっていただいた、地震以外の、例えばクマの被害ですとか、そういったことへの対応ということもあるかと思います。コースという形ではないんですけども、来年度の講座の中で、若干ですが取り入れたところがございます。

その1つは、「富山の環境」コースの第6回目に、「富山の動物」をテーマに設けました。講師の白石先生は、クマの被害のときによくテレビでご解説されていた先生です。生態系の変化やその対応といったお話をしていただきたいと思っています。

災害ということに関して言えば、「暮らしの実学」コースの第10回目に「もしもの災害に備えて」というテーマで、市の防災危機管理課の専門気象予報士に話をしてもらおうと思っています。若干ではございますが、そういったことも取り入れたところがございます。

4つ目の合唱につきましては、本当にご要望が毎年多かったものでございます。コロナが5類に移行したということで再開できるかと、ようやくお待たせしましたというところなんです。おっしゃる通り混声合唱ができればよいのですが、実情は募集をかけますと、ほぼ99.9%女性だけだと聞いております。講師も楽譜

は女声合唱を使われるということで、「女声」と限って募集をかけさせていただきました。以上でございます。

藤田議長　ほかにございませんか。

大島委員　アンケート結果の受講の動機についてのところで、「大学祭を見て興味がわいたから」が1.2%、「大学祭に来たことがある」が半分くらい。「学習成果を発表したいか」については、15.4%が「はい」。

私は日本画の講師なので、皆さんには講座の最後には、大学祭がありますということで指導しています。多分創作コースの方は、発表するという楽しみがあると思いますが、このアンケート結果には驚いています。

あと、大学祭をもう少し周知できれば良いのではと思いました。

藤田議長　本当に大学祭に関しましては、どうやってPRするかをもっとみんなでもいいのかと、私も個人的にはすごく思うところがございます。それについては、今現時点のPRの仕方とか、今後に向けてという形で説明ありますか。

事務局　ご意見ありがとうございます。

大学祭には本当にたくさんの方に来ていただきたいと思いますので、富山市の市政記者といまして市に登録しているマスコミ関係すべてには案内をしておりますし、チラシなどは市、県の施設にも依頼して配置し、あとは、「地場もん屋」にも置いていただきました。また、スーパーの大阪屋ですとか、アルビスとか承諾してくださった施設に郵送しております。今年度は、富山シティエフエムに学友会の皆さんが出演してくださり、大変楽しい番組にいただきました。

そういったことで機会をとらえて、周知に努めているところではありますが、実際なかなか来場者数が伸びてこないところがあります。もっと効果的な周知がないか、探っているところがございます。

基本的には、座学コースの方々にその発表というところが繋がらないところがあるのかと感じております。大学祭については、受講者様にもっと周知をして、家族とかに勧めたくなるような取り組みをしていきたいと考えている次第です。今の時点ではそういったところがございます。

藤田議長　やはり成果を発表する目的というのがあるので、ぜひこれは続けていただきたいと思います。

PRの話で、私も個人的にご質問したいのですが、今年度、令和6年度のPRについても、ケーブルテレビにご出演についてはどうでしょうか。

事務局 ケーブルテレビには今年度は出演していませんが、富山シティエフエムには出演しました。基本的には先方のお声がけということにはなるのですが、来年度もぜひ出演をと言ってくださっていると聞いております。

藤田議長 ぜひ、そういうふうの前に前にと戦略的に出ていっていただければと願うばかりでございます。
ほかにございますでしょうか。

奥野委員 大学祭は伺ったことないのですが、実は、篆刻の体験講座は参加したいというも思っています。ここで篆刻体験できるんだと思う人は、年齢を問わずいらっしやると思います。情報をとらえる機会とか場というのはすごく大事だと思います。

大学祭のことで言うと、私はいつもかなりラフな資料というか、資料にもなっていないようなものを作って、ただしゃべっているだけなのですが、今年はコース委員の方が、講座を聴かれてそれぞれ感じたことなどを、(受講者の方に)自由に書いてもらい、まとめて冊子にしてくださいました。

それはすごく驚きました。先ほどの交流を望んで行くか、そうでないかということである、おそらく何かこう、当てられたりする感覚になるのは皆さん、いやだなと思うんですね。これは別に市民大学に限らず、例えば富山大学のオープンキャンパスでも同様です。

例えばちょっと、毎回してるわけではないのですが、全然その講座とは関係なく、過去の講座で自分が今まで読んで、とても心に残った1冊っていうのを教えていただけますかといって、データも渡して書いていただいたことがあります。そしたら、皆さんすごく思い入れを持ってたくさんお書きになって、何も思っていないわけではなく、人前では抵抗があるのだと思います。その思いをどう受けとめるか、そういう方法などが大事なのかと思います。

ただ、講座なので、お話を聞きたいという思いで来られる方がまず大事だと思いますので、コミュニケーションの方を重くしてしまうと、基本的なところが弱くなってしまいます。

もう一つ言いたいことがあったのですが、忘れました。

藤田議長 また思い出したら、お願いします。

ここで受講者さん方のお話も伺いたいと思います。やはり学び合いとか出会いを求めている、誰かと話したいとか、そういう形での受講の目的もあるんですけども、それに付随するいろいろな目的もありますので、受講者さんの方でお

話を伺いながらどうなのかなとか、また自分が受講されてどうだったかをお話いただけたらと思います。

岡田委員 受講者の立場から今日出席させていただいていると思いますが、併せて、私は学友会組織の役員をしていて、大学祭についても実行委員として運営をしてきた立場から、感想、意見を述べさせていただきます。

1つは、大学祭についての課題の一つにステージ発表のコース数が少ないことがあります。ステージ発表というものは、大学祭の華ですが、コロナ関係でできない状態が何年かありました。ここ2年間は「富山の民話」コースと「リズム体操」コースの2つに限ってやっています。受講者の方々には頑張ってもらっていて、本当に会場は盛り上がりました。

来年度、コースに「女声合唱」が復活し、「リコーダー演奏を楽しもう」、「朗読を楽しもう」というコースが新たに加わり、この3つがステージ発表していただけるのではという大きな期待が持てます。

もう1点、ちょっと違う立場からなんですけども、デジタル環境の整備という点ですけども、インターネットによる申し込みができ、私たち受講者にとって足を運ぶ回数が減り、大変よかったと思っております。

それで、希望を言いますと、そのインターネットから登録した方は、ネット会員という形になっていただいて、その方々に定期的なメール配信を、月に1回とかあるいは2か月に1回でもいいんですけども、そういうふうにしていただければ便利になると思います。

ついでに無理を言いますと、学友会も今年、教養講座や現地学習を自主的にやっています。参加募集の窓口が、すべて市民学習センターにお願いしている状況です。私たち学友会も、(インターネットでの申し込みができるよう)学友会のメールアドレスを作っていただくなど、市民学習センターの申し込みと合わせた形でできないかという希望があります。

藤田議長 学友会の活動は、市民学習センターの特徴的なところでもあって、こんなにすばらしい活動をしているところは少ないです。だからもっといろいろな形で、発展的にしてほしいと思います。

インターネット環境は便利に使おうと思ったら、とことんまで便利になりますが、ただ危険も潜んでいるというところがあるので、どこまでが皆さんができるかなというところかと思えます。

企業、民間の生涯学習機関がインターネットを使っていろいろな形でやっています。これを続けていきますと、オンデマンドやオンラインでとかの要望が出てくるのかなと察するところがありますけど、このご意見に対していかがでしょ

うか。

事務局 ご意見ありがとうございます。

学友会の皆様には、本当に大学祭での実行委員としての活動と、学友会としての活動を、市民学習センターと両輪となっていただいていると思っております。

そのうえでなんですけれども、まず大学祭のステージ発表に関して、おっしゃられる通り、ステージ発表できるコースが少なく大変かなと思っております。

「富山の民話」と「リズム体操」をステージ発表としてやっているなかで、来年度、民話が廃止になるということもあります。ただそこはおっしゃっていたように「女声合唱」が復活、「リコーダー演奏を楽しもう」と「朗読を楽しもう」コースが1年目はわかりませんが、今後発表していただける可能性もあるということで、大学祭の目玉ということになればいいと思っております。

2つ目のデジタル環境につきまして、ようやくこちらでも電子申請で申込受けを始めることができました。始めるにあたって様々な課題がありまして、ようやく何とかやっているところです。今後気づかなかった課題が出てくる可能性もありまして、この動向を見ながら改善するところは改善していきたいと思っております。

電子申請ですが、富山県の電子申請システムを使わせていただいているので、独自で持っているシステムではありません。先ほどおっしゃっていたようなネット管理ですとか、配信とかは独自のシステムを持つことができれば可能になるのかと思いますが、予算の関係で、なかなか当面は難しいところです。

最後におっしゃっていた学友会の皆様の教養講座、現地学習の参加募集のことですが、窓口を持たれないので、いつもご苦労されているところだと思います。

おっしゃられる通り、(学友会の)メールアドレスができれば本当に便利だろうと思っておりますが、こちらのメールアドレスは公的なものとして一元管理されていて、セキュリティが強固なものとなっています。私どもで独自に何か設定するということができないものとなっております。新たなメールアドレスを作るということはなかなか困難かなというところです。これも例えば、独自でホームページを持ったり、そういったシステムを持ったりできれば何かできることもあるかもしれませんが、そういったことはもちろんご希望として心に留めておきたいと思っております。

藤田議長 ご要望があったということで、お願いしたいと思います。
それでは受講者の方の代表としてご意見いただきます。

高城委員　　まず、受講者として思うのは、いつも市民学習センターの職員の方々が、とてもきめ細やかなお世話していただいているということです。たくさんコースがあるのに少ない職員で、一生懸命やっただいてるので、本当に感謝しています。

それから、私は学友会の常任委員でもありますが、今年度初めての試みとして、会誌けやきを当該年度の会員に配布するという大きな変更をしたのですが、それに対しても、名簿の処理など煩雑な難しいことを市民学習センターの職員の方にやっていただくことになり、本当にお忙しいのに感謝しかありません。お世話になり、ありがとうございます。

あと、学友会員の申し込み人数が年々減っているのも大きな悩みで、1,000円の会費を払う会員は受講者の6割ぐらしかいないのは非常に大きな悩みです。

今年度、前期、後期の教養講座や日帰りの学習はとても楽しいものでしたし、12月に開催した学友会の会員の集いも、講師の先生や会員同士の繋がりが深まって、大変楽しいひとときだと思うので、もっとたくさんの方に学友会に入ってもらえるように何とか努力していきたいと思っています。

私が受講している「日本画」コースの方は、ほぼ同じメンバーで作業しているので交流は深まりますが、もう一つ受講している「中国史を学ぶ」コースは、ほとんど会話することなく、先生の一方的な話を聞いているだけで、交流はなく、コース委員として皆さんにいろんなことを働きかけても、ほとんど反応がありません。非常に人的な交流が深まりやすいコースとそうでないコースがあるということを、両方のコースを受けてみて感じました。

ただ、市民大学は他のカルチャーセンターとは違い、歴史、文学、考古学等、男の方がたくさん参加されるコースが多いので、これは富山市民にとってはすごくいい機会だと思っています。

アンケート結果を見て驚いたのは、受講者が大学祭に半数ぐらしか来ていないということです。少なくとも受講者が全員大学祭に来てくれれば、その関連の人たちも加えてもう少し、参加者が増えたのではないかと思ったので、来年度の講座で、大学祭を受講者の方にアピールしていきたいと思います。

また、コースにコース委員がないところもたくさんあり、今年度も大学祭のパネルを作ったとき、コース委員がないコースのパネルを、市民学習センターの方が、仕事の合間に作っているのを見て、大変申し訳ないなと思いました。これからはすべてのコースにコース委員を配置できるような形にしていきたいと思いました。

あともう1つ質問です。私の友人はショッピングセンターで1月の地震に遭いましたが、店員が全く避難誘導してくれず、自分たちはどうすればいいのか分

からなかったということでした。

例えば受講中、地震があったらどうするのか。避難訓練も日頃していません。受講者はお年寄りが多いので、そんなときには、年1回、何か訓練が必要だろうかと思います。

藤田議員 貴重なご意見をいただき、ありがとうございます。
運営に関しましては、今後どうしていくのかについてはどうでしょうか。

事務局 ねぎらいの言葉をたくさんありがとうございました。本当に学友会の皆様のご協力あってこそ運営できていると思うので、またよろしく願いいたします。

ご質問いただいた地震の対応につきましては、一番ご心配なところと私たちも思っております。避難訓練は年に2回、市民プラザ主催で行っていますが、やはり受講者を入れての避難訓練というのは、今までしたことがありません。

1月の地震後にすぐ、1月12日に特別講義を予定していて、余震があることも考えられましたので、本当に実態に即した避難誘導について、その直前ですけれども、各分担を決めシミュレーションをして、実際に動いてみました。もし講義などのときに、災害が起こったとしても、速やかに皆さんを安全に誘導できるように、こちらも詳しく再検討したところでございます。

そう言いながらも、実際にやはり受講者の皆さんに一度避難訓練をしていただくことも大事かと思いますので、まだ検討段階ではありますが、例えば学友会コース委員会で一回、一緒にしてみるのもよいのではと話をしていたところでございます。それについては、また（学友会の）皆さんにご相談をしたいと思えます。

藤田議長 やはり備えでございます。続きまして、山本委員さんいかがでしょうか。

山本委員 高城委員さんが地震について話されたので、私もそのことについて考えてみました。

次長様がおっしゃった訓練ですが、私も以前、市民学習センターの職員であったとき、熱中症が随分と叫ばれ始めた頃で、ご高齢の方の受講者がいらっしゃるということを念頭に置いて、緊急のときにどういう形でご家族にその連絡するかを話し合った記憶があります。緊急連絡先を受講者から聞いていますが、それが本当に機能する形になっていないと、いざという時に困ります。

また、シミュレーションということですが、例えば、来年度、講座の最初の人に、非常時の説明を皆さんに周知することが大事なことはないかと思いま

す。担当職員の方で、講座の初めに伝えていただけると受講者が安心するのかと思いました。

それから2つ目。大学祭の来場者が少ないことは、私も非常に心を痛めています。以前はアトリウムには、人がたくさん来られ、にぎやかな風景が私の記憶にはありますが、最近はその状況をなかなか見られなくなってきました。

それから大学祭に来てらっしゃる方に聞くと、体験レッスンやステージ発表を一つの目当てで来るとのことでした。来年度の場合には発表コース数が増える（可能性がある）ので、それを少しくリアできるかなということを思っています。

何よりも見に行きたいという気持ちを働かせるものは、やっぱり日頃から何か、講座のことで少し関わるとか、自分自身の作品が展示されてるとか、自分自身が発表する立場にあるとかだと思えます。

私自身、市民大学を受講して以来、ずっとコース委員という形で受講者のご意見をまとめていますが、感動するような内容がたくさんあります。大学祭に来られない方が多いということはそれを伝えられないと思いました。来年度は受講者の声をどうフィードバックするかを考えさせられました。

藤田議長 受講者さんの熱い思いを言葉にさせていただいてありがとうございました。本当に何ができるのかというところから入っていただいているというのも、これもやはり、積み重ねてきた日々のものではないかなと思います。他の会議で受講者さんからこういうご意見が出てくることは本当はないことです。

橘委員 私は今年度「美術の世界」と「健康生活の知恵」コースを受講していました。市民大学で、交流、出会いを求めてというお話が先ほどありましたが、私もそれはすごく大事だと思います。せっかく会するので、お友達になればいいという思いはありますが、自分の後ろになった人や、仲良くなった人とは話をする程度です。座学ではあまりそういう交流は、多分得られないと思います。

「美術の世界」コースは、美術館に受講者が行くことが多いのですが、お友達同士で参加されて、交流というのは無理そうだと思います。そうかといって、グループ討議などは無理ですし、何かいい方法がないかと思いながらおります。

私はいつも毎年言っていますが、市民大学は今の社会では大切な組織だと思います。アンケート結果にもありましたが、高齢者、60歳以上で95%の方がいらっちゃって、高齢者の社会進出の場所になっていると思います。

少しずつ、これからコースも増やしていくということですが、以前は70コースぐらいありました。市民大学が繁栄していくことを望んでいるので、ぜひ、70ぐらいのコース数にしてください。そうすれば受講者も増えると思います。

もう一つですが、アンケート結果の中に、以前は「どんなコースを受講したいですか」という問いがありました。受講者の皆さんがどんなコースを受けたいかを、ぜひアンケートの中に1つ入れていただければ、いろんな思いが伝わってくるかと思しますので、よろしく願いいたします。

藤田議長 ありがとうございます。

コース数については予算との兼ね合いなどがあると思いますが、今後については、ニーズに対しては応えていくという方向性でしょうか。

事務局 私はここに配属になって二年目ですが、本当に70コースをこの職員数でどのようにやっていたのだろうかと驚いています。市民大学に期待してくださるのは大変うれしく思っておりますし、少しずつコースを増やしていけたらという思いはありますが、職員数も以前より減り、実際どう運営できるかは予算も影響するところなので、そこは可能な範囲で少しずつできればと思っている次第です。

アンケートに、「どんなコースがご希望か」の問いを設けたいと思います。ご意見ありがとうございます。

藤田議長 それでは、今度は講師サイドからお聞きします。永田委員さんどうでしょうか。

永田委員 3つのことを感じたのですが、1つは受講される方の年数が、3年以内が45%。つまり、非常にうまく流れていて、よどんでいないと感じます。6年以上は40%、11年以上は15%というのは、岩盤もしっかりしていて、且つ新しい方も入っていらっしゃるという循環の状態であると感じました。

2つ目は、年齢構成ですが、70から79歳という受講者が50%以上ですから、大体70歳で、私の講座も平均年齢72.3歳です。これは年数が経てば、もっと上がってくる。将来的に、現役の方に道を開けるということで、30、40代向けの講座があってもおかしくない、もしくはそういう方と、70代が混ざるようなものがあっても新鮮さがあるのかと思いました。

3つ目は、岡田委員がデジタルのことをおっしゃいました。デジタル的なものをうまく活用する意味で、例えば、私はアマゾンをよく活用しています。私は最近、5冊アマゾンから本を出しましたが、発行することは無料です。プリントオンデマンドですから、在庫を持たなくて済みます。

市民大学の3、40年分の資料を、まとめてデジタルにして、アマゾンに載せてしまうのはどうでしょうか。フォーマットがあり、便利な、ネットワークシステムですから、将来的にも、今すぐでもできるぐらいのものです。

若い人たちを開拓しようと思うと、若い人が多く使用しているアマゾンにそのコンテンツをデジタルで載せる。このメディアを上手く使って、市民大学ということを広げていき、今までやってきたこともしっかり残すというのはどうでしょうか。

藤田議長　　今、ご意見が出て参りました。ただ難しいのは、そこまでするには、(受講者が) パソコンを所持していなければならない、経費面の問題があります。若い世代、子どもたちの学びには 1 人が 1 台パソコン所持し平等にという形が出てきております。生涯学習は学ぶ環境もありますので、そこを皆平等ということも考えていくということで、今回市民大学の申し込みも、電子申請もありますけれども、今までと同じ窓口も郵送も設けますというあらゆる申込方法を、市民学習センターさんが大きく設定しています。便利な手段を便利に使うときにどのように踏み切っていくのか、それがなかなか難しいです。ご意見として伺っておくことでよろしいでしょうか。それとも、視野に入れていただきたいということのご要望でよいでしょうか。

永田委員　　せっかくそういう手段があるので、やってみる価値があるのではないかと思います。

藤田議長　　委員の方から、そういうご提案があったということによろしいでしょうか。ありがとうございます。

それでは、あとはご発言されてない方がいらっしゃいます。

また先ほどの奥野委員の一言もいただけるかなと思います。

それでは木本委員いかがですか。

木本委員　　2つばかり、申し上げたいと思います。

先ほど布村委員さんのおっしゃった通り、この新しい、いわゆる地域資源の開発みたいなことをおっしゃいました。地域資源自体がどんどん少しずつ変質していているということも感じて、やはり効率的な新しいものをどんどんこれからも把握していく必要があるだろうと思っております。

例えば毎年、富山市でチンドンコンクールをやっています。これはもう 70 周年にもなるかと思えますけれども、これまで毎年の行事だったということは、これからは、だんだん歴史と伝統の中に入っていく時代になってきたのではないのでしょうか。そういう意味でのその切り口みたいなものも、今までの地域資源のあり方と、再構築、再確認していくということもまた、受講者に対する一つのサービスだと思っております。

それからもう1つ、皆さんおっしゃったことの全体的に関わると思いますが、藤田委員さんはもう5年前に、人口減少時代における、社会教育のあり方を担当しておられたと思いますけれども、その中で出てきた次世代支援と、それから人材育成ですかね、それと社会人支援と、それから元気なシニアに対する活動の場の提供と、こういったような三本柱があったかと思います。

先ほどアンケート結果などを見ましたときに、例えば学習成果の発表になかなか繋がらないという部分があったと思います。そういう意味で、例えば次世代の若い世代に対する1つの支援のあり方なんですけれども、例えば、将来の市民研究者、あるいは地域の記録継承者みたいなもの、あるいは、災害を通してまちづくりをするということです。もうそこに目を向けておられる地域もあると思いますが、そういった面と相反するアンケート結果が呈されているのかなと思います。これも1つ解決すべき問題ではないかと思います。

もう1つですけれども、この受講の動き、特に地域社会の活動に生かしたいという、その割合が非常にやっぱり低いというデータが出ておりますけれども、人づくりとか、繋がりづくりとか、あるいは地域づくりと、地域といえばそれが、広い意味で、そのうち国へ繋がっていく、そういったものが今後の課題としていくべきかと思っております。

いずれにしても、先ほど岡田委員さんが言われたようなネットワークの問題ですね。それから先ほどの永田委員さんがおっしゃったようなデジタルとアナログの共存のあり方は、これからどうしていくかということにマッチするのではないかと思います。

藤田議長 実際のところ、地域に対する関心がとても少ないというのは、現代社会の中で今課題とされているところなんです。それを取り組んでいるところがたくさんあります。

あともう一つ、実は今皆さん、「学びたい」ということです。ところがその学びの次に行くというのがなかなか難しいのです。なぜかという、例えばボランティア養成講座とか、サポーターということで学びたい、でも次に「活動参加してください。」という、「いいえ、結構です。」という形の方が多いです。こういう形を実は私たちの業界で「学び逃げ」と言っています。

良いか悪いかは置いておいて、そういう形が多い傾向にあるというのは、社会的なこととか価値観の相違とか、生涯学習の目的というのは自分の目的でやられるということがあるので、どういうふうに作り上げていくのか、いろいろな機関が課題として抱えている。

そんなところに、本当に貴重なご発言いただけたかなと思いますので、これは今、ゆとり、悟り世代とかね、ジェネレーションXYZ世代とかって言われてま

すけど、その方たちを今後どのように地域の中で育てていくのかは、全員で考えていかなければならないし、生涯学習支援を今後どのように歩いていくのかというところの関わりかと思えます。

ただ学友会というものが、すごくここは本当に働いている。これについては、そこまでやってるのかというくらい、他の自治体の方たちもおっしゃる。そういうところが、今根底に根付いていてるところをどう発展させていくのかという話かと思っております。

それでは、森野委員さんどうでしょうか。

森野委員 私は、大学を卒業してこのビルである市民プラザに入社しました。ずっと市民大学、市民学習センターさんに市民プラザを使っていたいただいて、大変ありがたく思っております。

平成元年からずっと、市民大学祭という、ものすごい人が来て賑わっていたという記憶があるのですが、改めてこう見ると、ちょっと最近は少し減ってきて、それはコロナだけの理由ではないという気はしました。

この平均年齢、平成のころは、もう少し若い方が多かったような気がするんですが、これ受講する人がそのまま年を経たということでしょうか。

私は、まちづくり事業部というところにいますが、街中でも同じ現象が起きてまして、その商店街を利用される方が大体似たような状態なんです。そうなりとその後どうなるかという、その後世が欲しいよねというのが商店街でも出てきている言葉なんです。

私の周りの男性陣から、よく聞くことですが、退職がもう5年10年先になったとき、退職した後何したらいいんだろうと言います。市民大学などはどうかと言うと、ずっと学んできてなかったのに、いきなり座学とか耐えられるかと言います。ちょっと気弱な発言とか、学びたいんだけどなんか二の足が出ないというところがあるようです。例えばお試し講座とか体験講座とか、学習参観みたいな感じで見れるようなものがあると、次の機会に行ってみようかなという気になるのではと思います。

あとは街中もそうなんですけど、平日だと女性がものすごくたくさん歩いています。60代70代男性がなかなか、出てこない。そういった退職された方々も、市民大学みたいなものがあると、街に出るきっかけづくりになるのかなと思います。

それから、市民大学祭のことで、たまに「これ誰でも行っていいですか」と聞かれることがありました。市民大学には通ってないんですけど行っていいですか、ということです。もしかしたら市民の方の中には、見に行きたいけれども家族でもないし関係もないのに、行ったら迷惑かと思っていらっしゃる方がい

るかもしれません。

街中のにぎわいというのは消費だけでなく、こういう知的好奇心を満足させる教養文化も学ぶことができるというのが、まちの醍醐味だと思います。そういった意味では、街中に来てる人たちが、市民プラザで市民大学があるというのも、知らない方もまだまだいらっしゃるかと思います。

あと、他の市とか県の市民学習をしてらっしゃる機関が、市民大学祭みたいなのをやっているかと思いますが、どんなふうに行っているのかと気になりました。そういったところの見学とか視察とか、あとは総合交流みたいなものがあると、「学び逃げ」がなくなり、参画意識が芽生えてくるというか、同時に関係人口も増えていくのかという気もします。

どんな人でもそうだと思うのですが、インプットし続けるとアウトプットしたときに、グンと実力が伸びるとというのが年齢関係なくあると思います。その機会としての市民大学祭での発表などの体験は「学び逃げ」にもならずになるのではと思いました。

藤田議長 ありがとうございます。

他の地域の市民大学といいますと、本当に人通りの多いところで、作品を展示したり、またホールを借りて催物をするとかという形です。ここは学べる場所でそのまま一括してしまうところが、特徴的かと思います。

ただ、やはり駅とか人通りの多いところで作品発表すると、何かしらで見ることにはできますが、やはり足を運んでもらわなければ、大学祭にも参加できないところがあるので、そこが良いところもあれば、そうじゃないところもあるというメリット・デメリットを抱えているのが現状です。

奥野委員さん、先ほどの続きどうでしょうか。

奥野委員 先ほど、受講者の方の平均年齢という話がありましたが、当時の方の平均年齢ってというのは一体何歳ぐらいなのかと思ったときに、73歳ということはないと思いますが、若くもないと思います。それはどういうことかということ、おそらく想像ですけども、そんなに簡単に知識、経験が見つけれられるわけではなく、でもお金を払って、こういうコースを何時間か受講したら、資格が与えられますというようなものではなくて、ゴールがあるわけではなく、常に若いときから、いろいろな時間をかけて、学んでこられたと方々だと思います。

先ほどお話し講座という話がありましたが、私は「江戸時代の文学を読む」コースを担当してまして、江戸時代の小説などを中心に読んでいます。大体10回ある中の9回は作品を読んで、そのうち1回は読んだ作品の関連DVDなどを鑑賞しています。

来年どうしようかと考えている中で、ほとり座で見た雨月物語にいたく感動したので、ぜひほとり座の施設で見られたりしないものかと感じました。おそらく市民大学にこられる方たちは、何か知りたい、いいものを知りたい。けれども、自分ではどうしていいかわからない。良かったいいものを教えてもらえるとすごく嬉しいという気持ちの方が多いと思います。それは歴史であったり文化であったりいろいろな創作活動であったりはあると思います。例えば、ほとり座で今月こんな面白い映画をやっていますとスタッフの人たちがお勧めし、そのあと時間があるようであれば、スタッフの人たちと一緒に「面白かったよね。」という話をするというようなことがあったりしても、面白いと思いました。

藤田議長 ありがとうございます。

いろいろな連携、ネットワークをどこまで作るかの問題は一步一步進めていくことになると思います。

ここで全員のご発言が終了したところですが、事務局からお答えできる部分があれば、お願いします。

事務局 奥野委員と森野委員からも貴重なご意見をいただきまして、やはりこちらには今までなかった新しい視点だなと思い、お伺いしておりました。それが可能かどうか、そういったことを含めて、もちろんこれからいろんな可能性を検討して参りたいと思っております。

あと、先に森野委員がおっしゃっていただいた、お試し講座的なことにつきましては、今やっている講座の中で1、2回ということかと思いますが、今、本当に少しの講座で公開講座というものはしております。「音楽サロン」、「日本の歌、世界の歌」といった音楽系コースではありますけれども、そういったところではしているのも、もし他のところでもできるものがあれば、それも検討していきたいと思っております。

そういったものをコースの中ではないのですが、先月、1月に特別講義としまして、単発の講座を実施しました。これについては通常やっている講座の中から、毎年何人か先生にお願いしまして、市民大学を知らない方に知っていただくという周知の意味も含めて、5回程度実施しております。

これには通常市民大学に来ておられない方が、来てくださったりしまして、受講の機会になっていると思います。まず機会を増やしていきたいと思っております。本当に奥野委員がおっしゃっていただいたように、やはりこちらから外に出ていくということも、確かに大事だと思えました。本当にこちらにも新しい視点を持って、いろいろ検討して参りたいと思っておりますので、またいろいろ教えていただければと思います。よろしく願いいたします。

藤田議員　私もこの生涯学習関係のいろいろなデータを見てまして、市民大学の平均年齢が一番高いです。次が県民カレッジ、そして本学という形で続いています。ですから講座の内容とかいろんなことにもよりますが、市民大学さんがどうなのかというのがやっぱり注目の的になっています。

あと講師陣についても、随分若手が入ってくるようになりました。そこはもう、世代交代といいますか、良いバランスになっているかなと思います。

あと新規の受講者さんが、これだけ入っているというところはすばらしい。これもやはりある程度定着してるところだと思いますので、来年度、この時間、またとてもすばらしい報告が聞けるかと期待するところです。委員の皆様には、たくさんご発言、思いの丈を話していただいたと思います。

ほかに特に意見がありましたら承りますけど、いかがでしょうか。

永田委員　例えば、飛び入りで講座を1回見ていただくのは駄目ですか。例えば、それくらいのゆるさがあれば、申し込みが終わってしまったあと、お試してみたいな形で1回だけ内容を見てみたいというのは、許容範囲ではないでしょうか。

事務局　こちらとしましては、当初から設定している公開講座等でしたら可能ですが、基本的には10回で3,000円をご負担いただいて入っていただいています。または、定員があるもので定員オーバーになるものについては抽選したうえで入っていただいて、落選した方もいらっしゃいます。あとは、体調不良の話ではないですけれど、緊急対応ということもありまして、飛び入りというのは基本的に今の時点ではしていないところではございます。たださっきのお試しというご意見もありました。そういったことも両方かなうようなやり方ができるのであれば、何か検討していけたらよいと思っております。ご意見ありがとうございます。

藤田議長　受講料をもらうということは、受講者との契約の状況になりますので、飛び込み講座となりますと、今、感染症の関係とかいろんなものがありまして難しいというようなところもあり、他の生涯学習機関も遠慮してほしいという形は、同じところではございます。そこは少し時間が必要かなというところです。よろしいでしょうか。

永田委員　もちろん定員になっているコース以外の、アンサンブルホールなどの大きなホール、100～130人の定員で、席が余っているコースのことで、そういう場合に、1回聞いてみたいという、これはもうバツですか。

事務局　そうですね。現時点では、お応えできない状況です。また検討していきたいと思えます。先ほどの受講料の話になりますと、例えば10回で3,000円だから1回300円というわけでもないのです、そういったところもございませう。

藤田議長　そうですね。受講料をいただくということは、その受講者さんとの契約状況があるのです、なかなかそういうところに移っていけないという難しさを持っています。

それでは、これで本当に意見が出尽くしたと思えます。

皆様には、本当にいろいろなご意見、ご質問を出していただいたと思えます。まだもしかしたらほかにあるかもしれませんが、その場合は、直接事務局の方に求めていただけたらと思えます。

本日の議事を終了してもよろしいでしょうか。
ありがとうございました。

閉会